

笑顔があふれたリレー公演 -いい大人形劇フェスタ2009-



定員を大幅に上回る観劇者

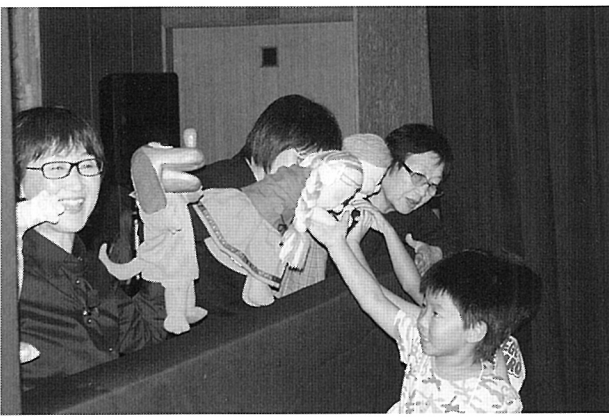
今年度の目玉の企画として、リレー公演が上げられます。これは、フェスタ期間中の、『オープンングセレモニー』と『りんごん』の時間を除き、午前、午後、夜のいつでも、地区内どこかで人形劇が繰り広げられたものでした。特に七日は、午前九時半から午後八時ころまで、竜丘公民館大ホールとサークル室を会場に、十公演が交替で絶え間なく繰り広げられました。

今年も飯田に暑い夏、人形劇の夏がやって来た。「いい大人形劇フェスタ2009」が八月六日から九日まで行われました。竜丘地区においても、十三会場二十公演が実施され、延べ二千八百名余りの観客が人形劇に見入りました。

又、予定した会場定員を大幅に上回り、スタッフの移動の際には、二百五十人くらいの観客が一緒に移動するので、すごい迫力がありました。楽しそうに、笑顔移動する子どもたちがとても印象的でした。

手弁当で観劇された親子づれも数多く見受けられ、一日中、竜丘公民館が人形劇一色に染まりました。

皆さんが、入場制限をかけるかと、嬉しきながらの会場準備となりました。サークル室の公演の際には、劇団の方が「けこみ」人形劇を演じる際の舞台を、予定の位置より下げて頂いたり、多くの方が観劇できる様に配慮もして下さいました。



中から、印象的な物を拾ってみると、「子どもを前列に集める様、工夫した方が良かった」と、「前の子どもが立ったりし、後ろで見ている人が迷惑。注意した方が良かった」と、観劇する際の「いい」など、観劇する際の意見もありました。一方で、「リレー公演が良かった」と二日に数多くの上演が見られて大満足でした。「年々観客の人数が多くなり良いです。会場が狭いかなと感じますが、楽しめれば多少ギューグユウでも満足できました」「スタッフの皆さんの努力に感謝します」など、公演に向けて、努力をして頂いたスタッフの皆さんの苦勞が報われる意見が数多く見られました。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,810人
男子	3,334人
女子	3,476人
世帯数	2,260戸
(21年8月末現在)	

く見られま... 県外からも多くの来場があり、人形劇のまち飯田が全国的に浸透している事がうかがわれます。

ある分館の感想の中に、「劇団も自腹で負担する経費も多く、家計から捻出して来てくれていた。支える側として主体的に関わってきたい」とありました。会場の設定、PRなどの運営、交流会の準備など、劇の皆さんが気持ちよく上演できる様、スタッフの皆さんの努力が毎年あるので、成り立っているのは事実です。地元住民として一番の関わりは、観劇する事だ

第五回、ふるさと学習会が、八月二十日「竜丘の生き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

福祉健康委員会では、本年度からひとり暮らしの高齢者の方を対象にした交流会を始めました。ひとり暮らしの皆さん同士の親睦を深め、つながりを広げようとの願いから生まれたものです。

交流会は、九月八日に遠山郷で行われました。参加者は二十六名、付き添いとして福祉健康委員が十六名参加しました。マイクロバースに揺られること一時間、八重河内にある「いろりの宿・島畑」に着きました。梶谷川のほとりに立つ



「今、私たちに何が出来るか。」昔に比べて忙しい世の中になり暮らしのゆとりや周囲の関わりが希薄になってきています。

環境問題は、もはや地球規模で考える必要がある。しかし立場が変われば見解が違い、諸外国の発展途上国との足並は揃わない。日本は京都議定書で掲げた目標を達成すべく、努力し、世界のリーダーシップをとっていかなくてはならない。

今は変革の時、歴史的な民主党大勝に、国内だけでなく世界の注目を浴びている。今後の期待を込めたものである。私たちも他人事と思わず、自分たち自ら考え、行動する時です。話は戻るが、冒頭の「今、私たちに何が出来るか。」再度考えてみると、未来の子どもたちにより良い環境を残してやるか。我々大人は、真剣に考え、良いお手本となる生き方を見せていかなければならない。

子ども心は純粋です。本当の意味で、自分本意ではなく世のため人のため、人の役に立つ事ができているか。振り返ってみる事が重要です。

ある会社のスローガンに「子どもに誇れるしごとを」とあります。我々大人は、仕事、働く事を通じて、人の役に立つ事をしていきます。その姿を見て子どもは育ちます。我々大人は子どもの成長を通じ喜び、楽しみを感じ、お互いが欠かせない存在です。又、地域の活動も欠かせない一つの支えです。その支え合いの気持ちを大切にしていきたいものです。

そして子どもたちから教わる事で私たちが大人の成長につながっています。

山郷で行われました。参加者は二十六名、付き添いとして福祉健康委員が十六名参加しました。マイクロバースに揺られること一時間、八重河内にある「いろりの宿・島畑」に着きました。梶谷川のほとりに立つ

き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

い出させる話を聞かせてくれました。

最後の話は、竜丘のほたるの発生。昨年ホタルが乱舞した、大井川の今年の発生状況や、駄科の不法投棄物等の堆積物で人が寄りつけない汚い場所での大発生、奇麗な水、美しい川にしか発生しないと聞いていたが、そうでもないのかも？などの話、会場からも色々な意見が出され、予定時刻を忘れてしまうような学習会となりました。

地域を知らなければ、今まで何気なく見ていたものが面白くなり楽しくなります。次回学習会、是非参加してみてください。

「今、私たちに何が出来るか。」昔に比べて忙しい世の中になり暮らしのゆとりや周囲の関わりが希薄になってきています。

環境問題は、もはや地球規模で考える必要がある。しかし立場が変われば見解が違い、諸外国の発展途上国との足並は揃わない。日本は京都議定書で掲げた目標を達成すべく、努力し、世界のリーダーシップをとっていかなくてはならない。

今は変革の時、歴史的な民主党大勝に、国内だけでなく世界の注目を浴びている。今後の期待を込めたものである。私たちも他人事と思わず、自分たち自ら考え、行動する時です。話は戻るが、冒頭の「今、私たちに何が出来るか。」再度考えてみると、未来の子どもたちにより良い環境を残してやるか。我々大人は、真剣に考え、良いお手本となる生き方を見せていかなければならない。

子ども心は純粋です。本当の意味で、自分本意ではなく世のため人のため、人の役に立つ事ができているか。振り返ってみる事が重要です。

ある会社のスローガンに「子どもに誇れるしごとを」とあります。我々大人は、仕事、働く事を通じて、人の役に立つ事をしていきます。その姿を見て子どもは育ちます。我々大人は子どもの成長を通じ喜び、楽しみを感じ、お互いが欠かせない存在です。又、地域の活動も欠かせない一つの支えです。その支え合いの気持ちを大切にしていきたいものです。

そして子どもたちから教わる事で私たちが大人の成長につながっています。

ふるさと学習会

第五回、ふるさと学習会が、八月二十日「竜丘の生き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

い出させる話を聞かせてくれました。

最後の話は、竜丘のほたるの発生。昨年ホタルが乱舞した、大井川の今年の発生状況や、駄科の不法投棄物等の堆積物で人が寄りつけない汚い場所での大発生、奇麗な水、美しい川にしか発生しないと聞いていたが、そうでもないのかも？などの話、会場からも色々な意見が出され、予定時刻を忘れてしまうような学習会となりました。

地域を知らなければ、今まで何気なく見ていたものが面白くなり楽しくなります。次回学習会、是非参加してみてください。

き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

い出させる話を聞かせてくれました。

最後の話は、竜丘のほたるの発生。昨年ホタルが乱舞した、大井川の今年の発生状況や、駄科の不法投棄物等の堆積物で人が寄りつけない汚い場所での大発生、奇麗な水、美しい川にしか発生しないと聞いていたが、そうでもないのかも？などの話、会場からも色々な意見が出され、予定時刻を忘れてしまうような学習会となりました。

地域を知らなければ、今まで何気なく見ていたものが面白くなり楽しくなります。次回学習会、是非参加してみてください。

き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

い出させる話を聞かせてくれました。

最後の話は、竜丘のほたるの発生。昨年ホタルが乱舞した、大井川の今年の発生状況や、駄科の不法投棄物等の堆積物で人が寄りつけない汚い場所での大発生、奇麗な水、美しい川にしか発生しないと聞いていたが、そうでもないのかも？などの話、会場からも色々な意見が出され、予定時刻を忘れてしまうような学習会となりました。

地域を知らなければ、今まで何気なく見ていたものが面白くなり楽しくなります。次回学習会、是非参加してみてください。

き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

い出させる話を聞かせてくれました。

最後の話は、竜丘のほたるの発生。昨年ホタルが乱舞した、大井川の今年の発生状況や、駄科の不法投棄物等の堆積物で人が寄りつけない汚い場所での大発生、奇麗な水、美しい川にしか発生しないと聞いていたが、そうでもないのかも？などの話、会場からも色々な意見が出され、予定時刻を忘れてしまうような学習会となりました。

地域を知らなければ、今まで何気なく見ていたものが面白くなり楽しくなります。次回学習会、是非参加してみてください。

き物面白い話をテーマに、駄科の塩澤義男さんを講師

島畑は、自然の美しさ、優しさが感じられるところ。霜月まつり保存会の皆さんです。早速、「和田の霜月まつり」で行われる舞を見せ

てみんなと話してよかったです。「久しぶりに大元気がよかったです。来年も来たいな。」等の感想が聞かれました。

この日、遠山郷は三十度を超える暑さでしたが、参加した皆さんの元気の良い

い出させる話を聞かせてくれました。

最後の話は、竜丘のほたるの発生。昨年ホタルが乱舞した、大井川の今年の発生状況や、駄科の不法投棄物等の堆積物で人が寄りつけない汚い場所での大発生、奇麗な水、美しい川にしか発生しないと聞いていたが、そうでもないのかも？などの話、会場からも色々な意見が出され、予定時刻を忘れてしまうような学習会となりました。

地域を知らなければ、今まで何気なく見ていたものが面白くなり楽しくなります。次回学習会、是非参加してみてください。

見て 触れて 体験する 水辺の楽校交流イベント

晴天に恵まれた、去る九月五日に今年で八回目の開催となる「水辺の楽校」交流イベントが、竜丘公民館と小学校PTAの共催で行われました。親子連れなど二百人を超える参加者が、和気あいあいと楽しい一日を過ごしました。

開会の後、まずは水辺の楽校周辺を散策しながら、植物などを観察する催しが行われました。講師に、かわらんべの堤久さん、伊那谷自然友の会の木下進さんと小林正明さんを迎え、三つのグループに分かれて行われました。

小林さんのグループでは昔懐かしい草花遊びをしながら、植物の名前や特徴などを学習しました。クズの葉の鉄砲では、コツがつか

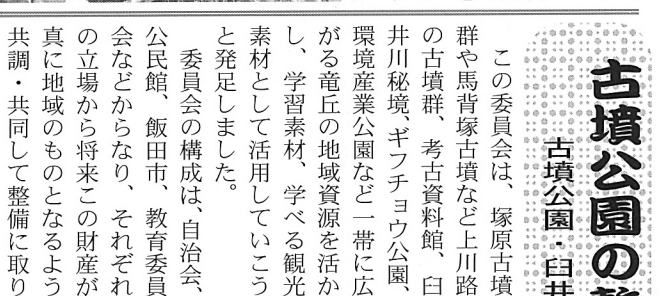


めずらかな音が鳴りませんでしたが、次第にあちらこちらで「パン、パン」といういい音が聞こえるようになりまし。このほかにオオバコの花や花占いなどを遊んで、身近な草花について学びました。

散策に参加した子どももからは「自然についているあるね」との感想も聞かれ、充実した観察会となりました。また、散策の途中、アレチウリが草木を覆っている場所があり、何とかしなければならぬと考えさせられました。

散策から戻ると会場は香ばしいにおいで包まれました。体育委員会や壮年団の皆さんが、草刈りや泥上げ

作業をして十分に参加者が楽しめるような環境づくりをしてくださいました。子どもたちは、豊かな自然の中で水に触れながら楽しく遊ぶことで、豊かな感性が育てられます。これからも水辺の楽校がますます活用されればと思います。



古墳公園の整備に向けて

古墳公園・白井川秘境遊歩道整備委員会

この委員会は、塚原古墳群や馬背塚古墳など上川路の古墳群、考古資料館、白井川秘境、ギブチョウ公園、環境産業公園など一帯に広がる竜丘の地域資源を活かし、学習素材、学べる観光素材として活用していくことと発足しました。

委員会の構成は、自治会、公民館、飯田市、教育委員会などからなり、それぞれの立場から将来この財産が真に地域のものとなるよう共調・共同して整備に取り

組んでいます。

これまでの整備としては

- 一、塚原古墳公園園化に向けて①二子塚の土地借り上げ②二子塚見学路の設置、チップ敷き③二子塚果樹木の伐採④二子塚試掘調査の実施⑤各古墳への看板の設置
- 二、白井川秘境遊歩道整備に向けて①黄金滝・座頭の手周辺の竹木伐採②二子の橋を新設③遊歩道の多く残っていないま

建屋の再建④馬背塚の土



二子塚見学路のチップ敷き

さわやかな初夏の風は 弦楽四重奏のしらべ

気軽にクラシックに触れてもらおうと、ふるさとコンサートが七月十九日に竜丘公民館大ホールで開催されました。出演は「あやめカルテット」で、あやめの花言葉にちなんで、演奏を「良き便り」として届けられたらと、京都市立芸術大学大学院生の四人で結成されました。

まず、モーツァルトの「アイネクライネナハトムジーク」を演奏した後、使用している弦楽器の紹介がありました。ファーストバイオリンはメロディーを、セカンドバイオリンはサポート、ピオラは低音のパートを、チェロは低い音で曲を支えると説明があり、楽器を一つずつ演奏してくれました。弦楽器は、すぐに音が狂うため、楽曲演奏したなら調音する必要がありますとのことでした。楽器の違いや特性がよくわかりました。

続いて、時計の音を真似たフレーズのある「シン

竜丘地区財産区 議員改選

今年十月から川路地区が屋外広告物に対する特別規制地区として指定されたことや、三遠南信自動車道の天龍峡インターまでの開通、二十八M道路の整備事業進行に伴って当該地区においても懸念されます。竜丘地域づくり委員会では、将来にわたって住み良い活気に満ちた地域として守っていくため、屋外広告物に対する新たな取り組みを検討する委員会を立ち上げました。委員会では竜丘全地区にある既存の屋外広告物の現地調

地区	氏名
夫照	宮内
公国	酒井
稔司	林平
男治	村平
男保	藤下
誠	伊木
	川上
	議席順

魅力ある景観を守るために

注目を集めた竜丘公民館 社会教育研究全国集会

第四十九回社会教育研究全国集会が八月二十一日、二十三日、二十四日の三日間にわたって阿智村で開かれました。

二十一日は、「飯田市における自治組織の再編と公民館のあり方」と題して前公民館長木下陸奥氏が講演されました。

二十三日の「地域文化の伝承と創造による地域づくり」分科会では、「丘の語部たちの継続発行で世代をつなぐ」と題して民俗資料保

存委員長の内村悦夫氏が発表し、素晴らしい取り組みと評価をいただきました。今村氏は初めての経験で緊張していましたが、実際に堂々として素晴らしい発表を行いました。

つづいて、下平隆司氏が「竜丘の古墳を考える会の活用」について発表し、竜丘公民館の先進的な取り組みに対して高い評価をいただきました。

動と地域の取り組み」を五部持参しましたが、あと題して発表し、竜丘公民館の先進的な取り組みに対して高い評価をいただきました。

二十三日の分科会



「発表者」

「司会」

「発表者」

「司会」

「発表者」

「司会」

「発表者」

「司会」

「発表者」

「司会」

「発表者」

「司会」

訂正とお詫び

館報二九三号「藤森栄一賞小林正春さん受賞」の記事で竜丘の古墳から馬具の出土の例がないとありますが、正しくは「馬の骨の出土の例がない」です。お詫びし訂正いたします。